



高校生の短期留学ホームステイ スウェーデン王国レクサンド市への旅

町では、まちづくりを担う人材を育成するための基金である「人材育成基金」を活用する事業の一つとして、「高校生の短期留学ホームステイ研修事業」を行っています。研修先は姉妹都市である「スウェーデン王国レクサンド市」。高校生は、レクサンド市や近郊に住んでいる家庭にホームステイをしながら、レクサンド市内の見学や高校で授業に参加しました。さらに現地の高校生たちと一緒に日本食を料理したり、レクサンドパークゴルフクラブのメンバーと勝負したりと、たくさんの方々と交流しました。

今回は、当別消防署員も引率者として同行し、レクサンド市の消防署で研修を受けてきました。模擬訓練にも参加し、多くのことを学びました。

★研修日程

5月13日～19日（レクサンド市滞在は5日間）

★研修生 4人

・町内に在住する高校生（札幌市内の学校に通学）

- 佐藤蒼空さん 2年
- 小出琳さん 2年
- 藤田千愛さん 2年
- 瀬能彩葵さん 2年

★研修内容

- ・レクサンド高校で授業体験等（社会・化学・生物・木工・国際関係）
- ・レクサンド市内見学
- ・ストックホルム市内見学
- ・在スウェーデン日本国大使館訪問
- ・パークゴルフ交流 など

★引率者 2人

- 根府真音まおと（当別町企画部企画課企画振興係）
- 菅原軍馬ぐんま（当別消防署警防課警防係）

当別町では研修生のこれからの成長とご活躍に期待しています。次回の研修予定が決まりましたら、広報誌等でお知らせします。

★問合せ先

人材育成基金・国際交流に関すること
企画課企画振興係 ☎ 23 - 3042



在スウェーデン日本国大使館を訪問しました！



レクサンドパークゴルフクラブのメンバーとプレーを楽しみました！



「焼きそば」、「じゃがいもと玉ねぎの味噌汁」を現地高校生と一緒に調理して食べました！



研修生に聞きました！

- ・短期留学で学んだこと
- ・印象に残ったこと



【佐藤蒼空さん】

長時間のフライト（移動）が初めてで、夜遅くにスウェーデンに到着して、とても疲れましたが、ホストファミリーがとても温かく迎えてくれました。その日は短い時間でしたが、日本とスウェーデンの話をしました。レクサンド高校では、簡単な英語で積極的に話しかけてくれ、特に初めて行ったパークゴルフは、先生・生徒とチームを組み、ラウンドをしながらとても会話弾みました。また、今回の短期留学に志望した理由は、将来福祉関係の手話たずさに携わる仕事に就きたいと思っており、福祉が進んでいるスウェーデンに興味がありました。実際、高校生やホストファミリーなど手話が分かる人がたくさんいて驚きました。ホストファミリーにまた会いたいです。日本では、ホストファミリーとして受け入れもしたいです。



右下が佐藤さん

【小出琳さん】

スウェーデン人は日本人と比較すると、外国人に対する接し方に差別や偏見が全くないと感じました。全員に平等に接していて、今後の世界に必要なことだと思います。ホストファミリーに日本人がいたので、日本語でたくさん話してしまいましたが、それでは短期留学の意味がなくなってしまうので、頑張って英語で話したことを褒めてもらったことがうれしかったです。レクサンド高校の授業は生徒の発表が多く、発表者が授業を行っている印象で、コミュニケーション能力が上がると思いました。7月に高校のカリキュラムでオーストラリアへ短期留学をする前に自信がつかしました。高校卒業後は海外に進学、就職をしたいです。



左が小出さん



ストックホルム宮殿



ノーベルメダル
(ノーベル博物館より)



ストックホルムの街並み



自然がいっぱいでありながら
幻想的な雰囲気にとっても感銘を受けました！



レクサンド高校で記念撮影

【藤田千愛さん】

高校の同級生の中で英語が得意ではなく、出発前は自信がありませんでした。スウェーデンに着いた時は、英語の質問に対して答えることで精一杯でした。短期留学中に、英語を話さないとコミュニケーションが取れない場面がたくさんあったので、少しずつ自分から話しかけるようになり自信ができました。日本人はシャイ（恥かしがり屋）で失敗を恐れて英語を話さないの、間違ってもいいからチャレンジして話して欲しいと言われてました。スウェーデンはキャッシュレスが進んでいて、とても生活しやすい国だと感じました。高校卒業後は、スウェーデンに留学ができる大学に進学したいです。



※現金を使わずクレジットカードなど 下が藤田さん
でお金を支払うこと



レクサンド高校のエン
トランス。この場所で
フィーカをしました！

【瀬能彩葵さん】

英語が得意ではないと自覚していたので、スウェーデン到着時は、コミュニケーションが取れるか不安でした。ホストファミリーと対面し、私にたくさん質問をしてくれましたが、始めは質問に答えるので精一杯でした。レクサンド高校での授業やフィーカ（お茶のみ）を経験してコミュニケーションが少しずつ取れるようになりました。特にフィーカでは、お菓子を食べながらゲームしたり、簡単な英語で高校生が話してくれたので、積極的に英語が話せました。スウェーデンはコミュニケーションをととても大切にしている国だと思います。ホストファミリーとドライブに行き美しい景色を見ました。帰国後も連絡を取り合っています。また会いたいです。



左が瀬能さん



ホストファミリーに連れ
てってもらった橋から
撮った景色。太陽がい
い感じに沈んでいてす
ごくきれいでした！

研修生4人が共通して、「もう少しホストファミリーと一緒に過ごす時間が欲しかった。毎時間違うクラスの授業に参加し、たくさんのレクサンド高校生と交流ができたが、もっと仲良くなりたいので、同じクラスに固定して交流したかった」ともお話ししてくれました。



レクサンド消防署で2日間研修をしました

～ 引率者2人が参加～

★研修先

北部ダーラナ消防連隊レクサンド消防署

★研修者

根府真音（当別町）・菅原軍馬（当別消防署）

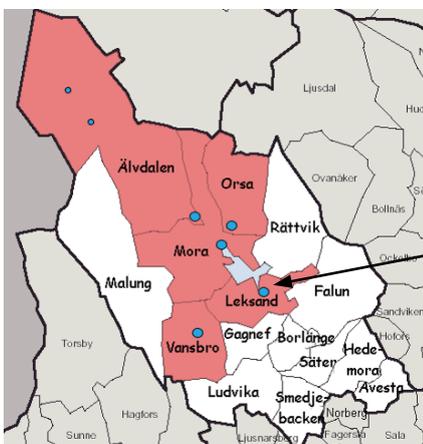
★研修内容

スウェーデンの消防・緊急事態対応等の説明を受け消防署の訓練活動へ参加

★レクサンド消防署概要

レクサンド、ヴァンスブロー、ムーラ、ウッシャ、エルブダーレン市で構成される北部ダーラナ消防連隊※に所属。正署員5人、パートタイム署員34人の合計39人。救急車3台、消防車7台で人口約16,000人をカバー（当別消防署と同規模）。

※当別消防署が所属している石狩北部地区消防事務組合（石狩市・当別町・新篠津村）の一部事務組合方式とおおむね同様の組織。



レクサンド市

：北部ダーラナ
消防連隊



（北部ダーラナ消防連隊のロゴ）

研修者を代表して、菅原軍馬さんにお話を聞きました

当別消防署を代表して今回研修させてもらい、当別消防署とレクサンド消防署の組織の違いなどとても勉強になりました。第一に、日本の消防署とは異なり消防部門と救急部門が完全に分かれているところです。救急は、病院が担当するという位置づけになっており、救急車に同乗するのは医師や看護師で、消防署員は同乗しません。日本のドクターヘリのイメージに近いです。レクサンド消防署は、同一の建物内に消防と救急がありました。スウェーデン国内では、建物が別々の場合もあると教えてもらいました。署員の身分も大きく異なっていて、正署員は資機材や車両の整備・管理をすることが主な仕事で、火災などの現場には基本出勤しません。火災が発生した場合は、パートタイム署員（非常勤）が火災現場に急行します。パートタイム署員は、4週間ごとに出勤義務があり、常にポケットベルを携帯し呼び出しに備えています。レクサンド消防署では、通報があってから5分以内に火災現場に向かう決まりがありました。

スウェーデンは、世界的に火災に関する消火戦術のレベルが高いことで知られています。その大きな要因が、教育体制の充実であることが分かりました。国内に大規模な訓練施設が2カ所あることに加え、レクサンド市にも訓練施設があり、今回、放水訓練と高所における消火訓練（下の写真参照）の体験をしました。施設が充実しているのも理解できました。

また、署員は仕事に追われている感じがなく、業務の合間には、フィーカ（お茶のみ）をしており、とても雰囲気良かったです。当別消防署とレクサンド消防署のそれぞれ良いところを取り入れて、町民の生命・身体・財産を守ることを続けていきたいです。



訓練参加者

■ 放水訓練・高所における消火訓練の様子



内径40ミリのハイプレッシャーノズルを使った放水訓練！当別消防署では内径50ミリ、65ミリが標準です。



はしご車のバケットに搭乗し、高所における消火訓練開始！



この部分の板を建物の屋根に見立て、小さな穴を開けて建物内部に放水する訓練。

■ 資機材なども当別（日本）とは違いました



日本の一般的なAEDとは異なり、電気ショックに加え、胸骨を圧迫するためのシート（写真左：胸の部分）が装備されている。



火災現場に入る時の空気呼吸器（酸素ボンベではなく、通常の呼吸をするもの）。細いタンク2本で1セットとなっており、当別消防署で使用している、太い1本のものより、背中の可動域が広く動きやすかったです。



スウェーデンの救急車は黄色です！385馬力のハイパワー！